

第1回核燃料施設リスク評価分科会議事録

1. 日 時 2014年10月23日（木） 10:00～12:00

2. 場 所 日本原子力学会 会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員）村松，吉田，眞部，浅沼，阿部，石田，糸井，関根，武部，平野，藤田，牟田
（途中退席）（12名）

（代理出席者（委員））高橋容之（鹿島建設／美原代理）（1名）

（委員候補者）橋本和典（原子力安全推進協会）（1名）

（欠席委員）山中（1名）

（常時参加希望者）内山軍蔵（日本原子力研究開発機構），河野卓矢（三菱重工業），松岡
伸吾（日本原燃），松村歩（グローバル・ニュークリア・ヒューエル・シヤパソ），吉田初美
（原子力規制庁）（5名）

（欠席常時参加希望者）高梨光博（原子力規制庁），寺山弘道（三菱原子燃料）

（傍聴者）山手一記（原子力規制庁），三橋雄志（三菱原子燃料）（2名）

4. 配付資料

| | |
|----------|-------------------------------|
| RK5SC1-0 | リスク専門部会 第1回核燃料施設リスク評価分科会 議事次第 |
| RK5SC1-1 | 核燃料施設リスク評価分科会 委員、常時参加希望者 名簿 |
| RK5SC1-2 | 核燃料施設リスク評価分科会の設置について |
| RK5SC1-3 | 核燃料施設のリスク評価の基本的な考え方 |
| RK5SC1-4 | 核燃料施設リスク評価分科会 策定作業の進め方 |
| RK5SC1-5 | 2015年春の年会セッション申請書 |

参考資料

RK5SC1-参考1 日本原子力学会再処理・リサイクル部会 核燃料サイクル施設シビアアクシ
デント研究ワーキンググループ報告書 「核燃料サイクル施設における対応を
検討すべきシビアアクシデントの選定方法と課題」（抜粋）

5. 議事内容

議事に先立ち，吉田委員から開始時点で委員14名中，代理委員を含めて13名の出席があり，委
員会成立に必要な2/3以上の委員数を満足している旨，報告された。

(1) 人事について (RK5SC1-1)

人事に関する審議に先立ち，委員，委員候補，常時参加希望者，代理出席者より自己紹介が
行われた。

①委員の選任

吉田委員から以下の委員候補が紹介された。

橋本和典（原子力安全推進協会）

審議の結果，委員に選任された。

②主査の選出，副主査及び幹事の指名

投票により主査の選出が行われ，村松委員 12 票，吉田委員 2 票により，村松委員が主査として選出された。

村松主査より，副主査に吉田委員が指名され，次いで主査と副主査の協議により，幹事に眞部委員が指名された。

③常時参加希望者の登録

吉田副主査から以下の常時参加希望者の登録について紹介された。

内山軍蔵（日本原子力研究開発機構）

河野卓矢（三菱重工業）

高梨光博（原子力規制庁）

寺山弘道（三菱原子燃料）

松岡伸吾（日本原燃）

松村歩（グローバル・ニュークリア・ヒュール・ジャパン）

吉田初美（原子力規制庁）

審議の結果，常時参加希望者 7 名全員について，常時参加者の登録が承認された

(2)設立の目的（RK5SC1-2）

吉田副主査から RK5SC1-2 に基づいて，核燃料施設リスク評価分科会の設置目的などについて説明が行われた。主な質疑は以下のとおり。

C：外部ハザードとして地震が最も重要との記載があるが，「外部ハザードに対するリスク評価方法の選定に関する実施基準」も勘案して，外部ハザードの中で地震が最も重要であるとした理由を明確にするようにして欲しい。

C：U 加工では建屋の健全性が重要であり、竜巻も重要である。

A：外部ハザードの重要度について，本標準で触れられるようにしたい。

C：「外部ハザードに対する・・・実施基準」を活用して重要な外部ハザードを見るのは良いが，標準として記載するのか。解説として記載するのは良いかもしれないが，ここで策定しようとしている標準の本来の趣旨と違うのではないか。

A：「外部ハザードに対する・・・実施基準」との整合性に留意することとする。他の標準との境界領域をしっかりと見定めて記載する。

Q：化学的なリスク及び従業員の取り扱いが標準の範囲に含めるのか。

A：標準に含める範囲は，ニーズがあるもの，かつ，技術があるものである。化学的リスクについては，最低限解説に含めることとして検討範囲に入れることとしたい。また，従業員については，技術的準備がないと考えており，他の場で検討がなされるべきと考える。標準策定期間が限られており，できることも限られてくる。

C：化学的リスクに関し，IAEA や諸外国では放射線リスクと同次元扱いとして規制しているようではあるが，一般的な化学プラントでの対応とのバランスも必要ではないか。

Q：化学的リスクに関し，UF6，HF 以外に周辺公衆に甚大な影響を与えるものはあるのか。

C：化学的リスクにしる，従業員の取り扱いにしる，まずは標準の枠組みを明確にすべきであり，本日この場で決めるというよりは，関連する情報をよく調べて，議論すべき。

A：優先度を考えて関連する資料を別途配付する。

(3)核燃料施設のリスク評価の基本的な考え方 (RK5SC1-3)

吉田副主査より、RK5SC1-3に基づいて、核燃料施設のリスク評価の基本的な考え方について説明が行われた。

(4)策定作業の進め方 (RK5SC1-4)

吉田副主査から、RK5SC1-4に基づいて、標準策定の進め方について説明が行われた。

また、当面の検討課題について、村松主査から、課題分野(3分野)ごとにリーダーを決め、各委員が分担して検討グループを構成し検討を進めることが提案された。また、村松主査から、課題分野ごとのリーダーとして、発生頻度評価は眞部委員、地震リスク評価は村松主査、影響評価は吉田副主査とする提案が行われた。

審議の結果、検討課題への進め方、及びリーダーの選任について承認された。

主な質疑は以下の通り。

C：検討グループでの検討も原則公開とし、標準作成のプロセス、検討内容、審議内容に公開性、透明性を確保する必要がある。

C：新規制基準の重大事故対策有効性評価の判断基準である¹³⁷Cs換算で100TBqを下回る放出量と長期的な被ばく線量との関係を明確にする必要がある。

A：本標準での課題とするか検討する。

(5)2015年春の年会企画セッション (RK5SC1-5)

吉田副主査から、RK5SC1-5に基づいて、2015年春の年会の企画セッションの講演の一つとして、リスク専門部会の成宮幹事より核燃料サイクル施設のリスク評価に関する講演が申請されているとの説明があった。

審議の結果、2015年春の年会の企画セッションにおいて、核燃料サイクル施設のリスク評価に関する講演を行うことが承認された。

(6)その他

・吉田副主査より、「核燃料サイクル施設における対応を検討すべきシビアアクシデントの選定方法と課題(抜粋)」(RK5SC1-参考1)について、本標準策定に関連するため熟読することが要請された。

・次回の核燃料施設リスク評価分科会は、2014年12月3日(水)午後の開催となった。

以 上